平成２０年度第３回武石地域協議会　会議次第

平成 20年 6月 23日（月）午後 7時
武石地域自治センター　 2階会議室

1　開　会

2　会長あいさつ

3　センター長あいさつ

4　協議事項
わがまち魅力アップ応援事業プレゼンテーション選考について

1) 一里花桃の里、余里自治会整備事業（余里自治会）
2) ヒカリ苔輝く美ヶ原登山道整備事業（武石山岳会）
3) 武石早起き野球連盟 40周年記念！ 100周年以上まで続くように将来の会員を育てようプロジェクト（武石早起き野球連盟）
4) 「見よ美しの歌」伝承・文化交流事業（武石音頭・武石小唄を愛し保存する会）

5　部会の構成について

6　選考審議

7　報告事項
上田市公共交通活性化プランについて（建設課）

8　その他

9　閉　会

２０年度分科会委員構成(案)

No.	氏名	備考
1	桜井　敏昭	会長
2	小山　洋江	副会長

（１）市民生活部会（市民生活課・健康福祉課・教育事務所関

1	新井　繁雄	
2	伊藤　隆子	
3	上野　正司	
4	佐藤　栄作	
5	城下　ゆかり	
6	滝澤　由美子	副会長
7	橋詰　真由美	
8	曲尾　行雄	部会長
9	増子　カオリ	

（２）地域振興部会（地域振興課・産業観光課・建設課関係）

1	井出　守雄	副会長
2	柿嶌　祐子	
3	清住　章雄	部会長
4	高田　忍	
5	中嶋　和夫	
6	松井　幸夫	
7	松代　典之	
8	依田せつ子	
9	依田　則俊	

長野県上田地域における
公共交通活性化プラン

上田市内を運行しているバス

一般路線バス	菅平高原線、長野病院線、 室賀線、塩田線、長久保線 信州の鎌倉シャトルバス、いで湯バス
生活交通路線バス （国・県補助路線）	真田線、佐久上田線、 青木線、鹿教湯線
廃止路線代替バス （上田市補助路線）	傍陽線、豊殿線、祢津線、 県道川西線、西丸子線、丸子線、 中仙道線、武石線、（渋沢線）
コミュニティバス	上田地域：循環バス、オレンジバス
	丸子地域：循環バス
	真田地域：ふれあいバス
	武石地域：デマンド交通

バス運行状況

1．輸送人員　　単位：人

	17年度	18年度	増減
一般路線バス	260,150	235,530	△ 24,620
生活交通路線バス	716,567	671,503	△ 45,064
廃止路線代替バス	219,229	160,822	△ 58,407
コミュニティバス	90,959	93,184	2,225
計	1,286,905	1,161,039	△ 125,866

2．損益　　単位：千円

	17年度	18年度	増減
一般路線バス	△ 17,923	△ 24,506	△ 6,583
生活交通路線バス	△ 53,554	△ 59,076	△ 5,522
廃止路線代替バス	△ 63,719	△ 58,223	5,496
コミュニティバス	△ 44,112	△ 53,367	△ 9,255
計	△ 179,308	△ 195,172	△ 15,864

※廃止路線代替バスの損益減少は、運行本数の削減及び運行単価の見直しによるもの。

公共交通活性化プラン策定の目的

平成１８年３月に１市２町１村が合併して誕生した上田市の公共交通は、合併前の行政区域ごとに構築されたもの。

↓

既存の公共交通体系を活用し、誰もが公平に利用できる公共交通体系となるよう見直しを行い、公共交通の利用促進を図る。

公共交通活性化プラン策定検討会委員構成

交通事業者	上電バス㈱、千曲バス㈱、ＪＲバス関東㈱、 しなの鉄道㈱、上田電鉄㈱、 長野県タクシー協会上小支部
学識経験者	信州大学工学部教授
関係団体	上小圏域障害者総合支援センター、上田商工会議所、 上田観光コンベンション協会、上田市婦人団体連絡協議会 豊殿地区循環バス運営委員会、上田市福寿クラブ連合会、 上田市身体障害者福祉協会、上小高等学校校長会
地域代表	上田市自治会連合会（上田、丸子、真田、武石各地域代表）
行政機関	国土交通省北陸信越運輸局、長野県、上田市

公共交通整備の基本サービスレベル

①長野方面・小諸方面への通勤・通学が可能
②上田中心市街地への通勤・通学が可能
③上田中心市街地への午前・午後の往復が可能

公共交通整備の基本方針

誰もが公平に利用できる公共交通体系の構築

効率的な公共交通体系の構築

鉄道との連携を図る公共交通体系の構築

地域づくりを支援する公共交通体系の構築

利用者主体の公共交通体系の構築

武石線（廃止路線代替バス）

下秋和⇔上田駅⇔巣栗上
運行事業者：千曲バス㈱
平日１日の運行便数
１3便→ 5便

朝夕５便中２便は
下秋和発着とし、
残り３便は大屋駅
発着とする。

日中の運行は廃止とし、
デマンド交通へ完全移行

鹿教湯線（生活交通路線バス）

下秋和⇔上田駅⇔鹿教湯温泉
運行事業者：千曲バス㈱
平日１日の運行便数
４０便→３９便

西丸子線（廃止路線代替バス）

下之郷駅⇔丸子駅
運行事業者：上電バス㈱
平日１日の運行便数
１０便→１４便

一部を平井寺経由とし、
平井寺地区のバス利用
不便地域を解消する。

長久保線（一般路線バス）

上田駅⇔長久保
運行事業者：JRバス関東㈱
平日１日の運行便数
１６便現状維持

鹿教湯線（平井寺経由）（生活交通路線バス）

下秋和⇔上田駅⇔鹿教湯温泉
運行事業者：千曲バス㈱
平日１日の運行便数
6便→4便

中仙道線 廃止路線代替バス）

大屋駅⇔芦田
運行事業者 :東信観光バス㈱
平日１日の運行便数
２０便→１９便

コミュニティバス

丸子線 廃止路線代替バス）

丸子駅⇔芦田
運行事業者 :東信観光バス㈱
平日１日の運行便数
１０便→１２便

丸子地域循環バス

○循環頻度を高めるため、東回り、西回りにコースを分割。
○バス利用不便地域を解消するため、ルートを見直し。

武石地域
デマンド交通

丸子方面便はすべて
大屋駅発着とし、武石線
の減便をカバーする。

フリーエリアを下沖から
腰越橋まで拡大

公共交通体系再構築実施プログラム

基本方針	施策の内容	月移行対応			期間 実施主体	運賃設計			市職員設置（FTE）			施策実施予定
						初期	利用者負担	市負担	初年度	定常		
地域の交通ネットワークの確保による中心市街地の維持	市街地を取り巻く宅地（郊外住宅地）	交通	地区内を小型バスが巡る定常ルートを設定	広域バス	市	20,000	16,700	3,300				
		内容	地区内を小型バスが巡る定常ルートを設定	地域バス	市	20,000	15,700	4,300	0.50	0.50	0.00	
			運行方法：事前予約制運行	地域バス								
			地区内の既存路線のアクセスを図り運行する。									
誰もが公共交通でアクセスできる公共交通体系の維持	市内サービスレベルを高めるための変更	市内地域	市内全域を対象に地域バスを設定する。	広域バス	市	117,000	101,100	15,900				
		内容	新しい公共交通とその地域によるダイヤ変更	広域バス	市	71,200	61,700	9,500				
		地域間輸送	運賃：1回乗車一律100円	広域バス	市	19,000	19,000	0.00				
		内容	新しい公共交通とその地域によるダイヤ変更	広域バス	市	19,000	19,000	0.00				
		市内地域	新しい公共交通とその地域によるダイヤ変更	広域バス	市	0.00	0.00	0.00				
		公共交通	新ダイヤ変更			0.00	0.00	0.00				
地域特性別施策、利便への対応	地区内への公共交通ダイヤ化、サービスレベルを高めて上から変更	地区内地域	新ダイヤ変更	広域バス	市	4,500	1,200	300	4.50	4.00	0.50	
		情報	新たな路線への運賃値下げ可能なように	広域バス	市	26,700	27,122	350				
		内容	公共交通									
		内外、内容	新下車地区にバスの停車設置	広域バス	市	21,500	21,500	1,440	3.50	11.00	8.50	
		中心市街地地区間	新たな地区間の運賃設定のあるような変更									
		中心市街地地区間	新たな地区間の運賃設定	広域バス	市	21,700	21,500	750				
		市内地域	新地区間、七石地区とその間によるダイヤ変更	広域バス	市	16,200	14,700	1,470				
		情報	新しいバス路線開設									
		情報	新サービスレベルを高めるようダイヤ変更	広域バス	市	20,400	18,183	2,217	11.00	11.00	1.00	
		情報	新設定のあり、新たな地区による運賃値									
		情報	新サービスレベルの設定及び	広域バス	市	16,772	16,772	0.00	9.50	9.50		
		情報	新、七石地区とその間によるダイヤ変更	広域バス	市	20,427	16,302	4,125	9.50	8.00	1.50	
		市内、上田駅	新中心市街地から運賃値下げ可能でする	広域バス	市	21,500	21,500	0.00				
		中心地域	新、七石地区とその間によるダイヤ変更	広域バス	市	16,302	15,066	236	7.00	6.00	0.00	
		七石地区	新地区一体的な公共交通開発	広域バス、市	市	4,725	1,197	450	2.50	2.50	0.00	
誰もが公共交通でアクセスできる公共交通体系の維持	市内中心市街地	市内中心市街地	新交通の一部運営を市職員及びオンライン	広域バス	市		11,150	11,150		1.00	1.00	
		市内中心市街地	公共交通の	広域バス	市							
		九ノ沢地区	新ルートの変更及びダイヤ変更	広域バス	市	9,770	11,150	3,770	0.50	11.00	1.50	
市民参加の組織化	オレンジバス	新オレンジバスの運行による地域活動の		広域バス	市	19,900	19,900	-	12.00	12.00		
「都市間交通」の交通体系の維持	都市の間と地域への対応	松原市地域	「高サービスレベル」に対応したダイヤ改善	広域バス	市							
		上田市地域	新ダイヤ改善の時刻対応による	地域バス	市							
		情報	「利用、「定常」「現在」を含めた検討	地域バス	市							
		市内地域		地域バス								
		地域		地域バス								
	市内の中学校	市内中学校	「高サービスレベル」に対応したダイヤ改善	広域バス	市							
		情報	新ダイヤ改善の時刻対応による	広域バス	市							
		上田駅		地域バス	市							
市内地区を市中心部へ対応	市内地区を市中心部へ対応	市内中心市街地	「高サービスレベル」に対応したダイヤ改善	広域バス	市							
		情報	新設市内地区の開発	広域バス	市							
		情報		地域バス	市							
		上田駅		地域バス	市							
市内地区のストックの活用	市内ストックの活用	情報	新地区建ドット	市職員								
			市内地区のストックを活用新地区のような活用									
			新地区での公共交通の市内ドアとバスを結んで、地域中心市街地へ対応する。									

*1：利用状況を検証し、今後の方向性を検討していく。
*2：実証運行の結果により今後の方向性を検討する。

乗り継ぎ情報提供表示板の設置

鉄道とバスの結節点である上田駅と大屋駅に、バスの乗り継ぎ情報を分かりやすく提供する案内板を設置。

≪案内板のイメージ図≫

基本方針	施策の内容	月移行対応			期間 実施主体	運賃設計			市職員設置（FTE）			施策実施予定
						初期	利用者負担	市負担	初年度	定常		
地域の交通ネットワークの確保による中心市街地の維持	市内地区を市中心部へ対応	市内地区地区	新ルート見直しダイヤの変更	広域バス	市	26,800	29,200	2,700	10.00	10.00	11.00	
	市内地区をバスで結ぶ	内容	新地区間の公共交通ルートとバスの設定	広域バス	市		2,500	2,500		2.00	2.00	
			新地区間の公共交通ルートとバスの設定	広域バス								
			新地区間の既存のアクセスを図り運行する。									
市内地区をバスで結ぶ	市内地区をバスで結ぶ	市内地区地区	新ルートの見直しとバスの設定	広域バス	市	5,400	5,400		3.00	3.00		
		内容	新ルートの見直しとバスの設定	広域バス								
市内地区のアクセス強化	市内地区のアクセス強化	市内地区地区	新ルートの見直しとバスの設定	広域バス	市	87,200	41,500	2,000	17.00	17.00	17.00	
			新ルート：丸子方面への接続で、バスを利用する。									
			市内地区：新設市職員による運営をさらにする。									
		市内地区地区	新市内地区の地区間のアクセスを	広域バス								
		市内地区地区	新市内地区の地区間のアクセスを	広域バス								
		市内地区地区	新市内地区の地区間のアクセスを	広域バス								
地域特性別施策、利便への対応	地区内への対応	地区内地区	新ルート見直しダイヤの変更	広域バス								
		市内地区地区	新市内地区の地区間の公共交通ルートとバスの設定	広域バス								
		市内地区地区	新市内地区の地区間の

事業実施スケジュール

地域公共交通活性化・再生総合事業費補助を受ける場合
法定協議会設置
連携計画策定・送付
地域公共交通活性化・再生
総合事業計画（最大３ヶ年）
運輸局認定
補助金交付申請（初年度）
交付決定
地域公共交通活性化・再生
総合事業実施（初年度）
評価実施
運輸局による評価・助言等
事業計画の変更申請
運輸局認定
補助金交付申請（2年目）
以降繰り返し

公共交通体系再構築実施プログラム

基本方針	施策の内容	具体的対応		施策実施主体	需要推計			市補助金額（千円）			施策実施予定							
		施策対象	内容		18年度	想 定		18年度	想 定		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度以降	
							増減			増減								
鉄道との連携を図る公共交通体系の構築	鉄道駅を起終点に変更（朝夕は変更無）	室賀線	■起点を小泉バス停に変更及びダイヤ変更（朝夕は上田駅直通）	千曲バス	29,870	26,925	-2,945									*1		
		武石線	■起点を大屋駅に変更及びダイヤ変更（朝夕の一部は上田駅直通） ■昼間の運行便はデマンド交通へ移行する。	上田市 千曲バス	25,694	23,741	-1,953	5,521	4,123	-1,398						*1 *1		
誰もが公平に利用できる公共交通体系の構築	幹線バス路線ダイヤを、基本サービスレベルを満たすよう変更	菅平高原線	■19:50上田駅発の便を設定する。	上電バス	127,682	131,332	3,650									*1		
		真田線	■しなの鉄道との接続によるダイヤ変更	上電バス	71,418	61,763	-9,655									*1		
		鹿教湯線	■朝、上田駅方面への便の統合 ■16:05丸子駅前発を鹿教湯車庫発に変更	千曲バス	191,836	194,136	2,300									*1		
		青木線	■しなの鉄道との接続によるダイヤ変更	千曲バス	97,455	100,400	2,945									*1		
		長久保線	■ダイヤ変更（朝の時刻変更、午後早い時間帯に便を設定）	JRバス関東	66,065	68,620	2,555									*1		
	再編対象路線、幹線バス路線以外のバス路線ダイヤを、基本サービスレベルを満たすように変更	県道川西線	■ダイヤ変更	上田市 千曲バス	4,920	5,219	299	6,523	6,410	-113						*1		
		塩田線	■中心市街地への通勤通学が可能なようにダイヤ変更	上電バス	26,730	27,322	592									*1		
		西丸子線	■平井寺地区にバス停を新設 ■丸子への通学利用の利便性を高めるようダイヤ変更	上田市 上電バス	23,924	25,568	1,644	5,764	14,275	8,511						*1		
		平井寺経由鹿教湯線	■15:20鹿教湯車庫発を削減	千曲バス	24,992	24,262	-730									*1		
		長野病院線	■朝の便、しなの鉄道との接続によるダイヤ変更 ■夕方、4便を増便	上電バス	46,229	51,704	5,475									*1		
		傍陽線	■基本サービスレベルを満たすようダイヤ変更 ■入軽井沢方面、10時～11時台に1往復増便	上田市 上電バス	39,698	41,815	2,117	11,689	13,494	1,805						*1		
		豊殿線	■基本サービスレベルの満足及びしなの鉄道との接続によるダイヤ変更	上田市 上電バス	16,772	16,772	0	9,532	9,532	0						*1		
		袮津線	■しなの鉄道との接続によるダイヤ変更	上田市 千曲バス	28,627	26,802	-1,825	9,910	8,655	-1,255						*1		
		佐久上田線	■中心市街地から通勤通学で帰宅できるようにダイヤ変更	千曲バス	24,820	24,820	0									*1		
		中仙道線	■しなの鉄道との接続によるダイヤ変更	上田市、立科町 東信観光バス	16,462	15,866	-596	7,043	6,565	-478						*1		
		丸子線	■18時～19時台に1往復増便	上田市、立科町 東信観光バス	4,725	5,219	494	2,240	2,160	-80						*1		
	再抽出した公共交通不能地域、不便地域解消	真田本原地区 サンライン沿線	■傍陽線の一部便を本原地区及びサンラインへ迂回させる	上田市 上電バス		12,446	12,446		3,897	3,897						*1		
		丸子循環バス	■ルートの変更及びダイヤの変更	上田市 千曲バス	8,729	12,506	3,777	8,349	11,083	2,734		*実証運行				*2		
	料金体系の適正化	オレンジバス	■オレンジバスの運行は当面現状維持	上田市 交通事業者	39,990	39,990	0	12,610	12,610	0	オレンジバスが市民に浸透し始めた実情を踏まえ、当面は現状の運行形態を維持する。（一部ルート変更） ルートの在り方、料金体系の変更は今後の検討課題とする。							
効率的な公共交通体系の構築	利用率の低い路線への対応	県道川西線 長野病院線 豊殿線 中仙道線 丸子線	■「基本サービスレベル」に対応したダイヤ改善 ■ダイヤ改善後の利用状況により「存続」「変更」「廃止」を含めた検討	上田市 上電バス 千曲バス 東信観光バス							当該路線に対しては、「基本サービスレベル」に対応するダイヤ改善を施し、当面はダイヤ改善後の利用状況を判断し、「存続」「変更」「廃止」の方向性を検討する。								
	車両の小型化	県道川西線 豊殿線 丸子線 中仙道線	■「基本サービスレベル」に対応したダイヤ改善 ■該当路線の運行車両は小型車両での運行とする	上田市 上電バス 千曲バス 東信観光バス							当該路線に対しては、「基本サービスレベル」に対応するダイヤ改善を施し、、当面はダイヤ改善後の利用状況を判断し、「存続」となった時点で、交通事業者と協議しつつ、順次車両小型化を行っていく。								
	車両配置非効率路線への対応	県道川西線 豊殿線 丸子線 中仙道線	■「基本サービスレベル」に対応したダイヤ改善 ■配置車両数の削減	上田市 上電バス 千曲バス 東信観光バス							今後、交通事業者と協議しながら、実施可能路線を再検討し、出来るところから順次実施を検討する。							
	既存ストックの活用	各地域	■現在運行中のショッピングセンターお買物無料巡回バスを活用	各地域他							中心市街地活性化の視点及び丁跡地との関連から、運行主体企業と協議し、更なる一般利用促進を目指す。							
			■旅館等の宿泊施設が所有するバスを用いて、地域内におけるバス運行を検討する。								交通事業者と調整を図りつつ、各組織において実施可能性を協議するところから始める。 また、車両等の活用においては十分な安全性を確認する。							

***1：利用状況を検証し、今後の方向性を検討していく。**
***2：実証運行の結果により今後の方向性を検討する。**

基本方針	施策の内容	具体的対応		施策実施主体	需要偏計			市補助金額（千円）			施策実施予定
		施策対象	内容		18年度	想定		18年度	想定		平成20年度 / 平成21年度 / 平成22年度 / 平成23年度以降
							増減			増減	
地域づくりを支援する公共交通体系の構築	中心市街地活性化支援	市街地循環バス	■ルート及びダイヤの変更	上田市 交通事業者	26,805	29,593	2,788	18,058	30,372	12,314	実証運行 / *2
	塩田地域まちづくり支援	塩田教育施設集積地域	■塩田教育施設集積地域において、大学前駅と各教育施設を結ぶシャトルバスの運行	上田市 交通事業者		2,321	2,321		2,511	2,511	実証運行 / *2
	真田地域まちづくり支援	ふれあいバス	■現在、途中乗降不可能なふれあいバスを途中乗降可能とした運行を検討する。	上田市	7,452	7,452	0	3,361	3,361	0	*1
	新たな試みへの配慮	武石デマンド交通	■デマンドエリアを拡大する。 ■大屋・丸子方面への便を全て大屋駅発着とする。 ただし、依田窪線方面は従来どおりとする。	武石商工会	10,208	12,431	2,223	9,618	12,025	2,407	エリア拡大 / ダイヤ改善 / *1
		豊殿地区及び地域自主運行システムを導入する地区	■豊殿地域自主運行方式に対する行政支援制度の創設 ■地域自主運行方式導入地域に対する行政支援制度の拡大	上田市							豊殿地区への行政支援 / 地域自主運行バス導入地域への拡大
利用者主体の公共交通体系の構築	高齢者への配慮	各バス路線	■バス料金の補助制度	上田市							交通事業者、各関係機関との協議の上、実施可能な段階になった時点で順次実施していく。
		高齢者福祉施設等が行政サービスを行っている施設と各公共交通機関	■公共交通利用啓発キャンペーン	上田市							
		各公共交通機関	■高齢者運転免許自主返納支援事業	上田市							
		各バス路線	■バリアフリー車両の導入	上田市 交通事業者							交通事業者と協議の上、導入可能と判断された路線、時期により順次実施していく。
		各公共交通機関	■バリアフリー交通施設の整備	上田市 交通事業者							交通事業者、各関係機関との協議の上、整備計画の検討を行い、順次整備していく。
		地域拠点バス停	■バス停待ち合い施設の整備	上田市 交通事業者							
	公共交通利用者への配慮	交通結節点	■交通結節点における分かりやすい案内板の設置	上田市 交通事業者							
		全ての施設	■分かりやすい時刻表と路線図の提供	上田市 交通事業者							
		大屋駅、小泉バス停	■乗り継ぎ料金制度	上田市 交通事業者							交通事業者と協議の上、制度が決定され次第、実施していく。
		各バス路線	■土・日・祝日のバス運行の検討	上田市 交通事業者							休日の公共交通への依存度は、平日に比べかなり低いため、 当面は現状での運行形態を維持するものとし、状況に応じてダイヤ調整を行う。
		市街地循環バス	■循環バスの愛称	上田市 交通事業者							
		市街地循環バス 上田電鉄別所線	■車両の新出	上田市 交通事業者							中心市街地循環バス / 上田電鉄別所線
		各バス路線と該当施設	■お帰り乗車券 ■買物共通バス券 ■公共交通利用でカードポイント優遇 ■医療機関施設のクーポン券付き乗車券 ■帰宅定期券 ■休日の子供料金優遇	上田市 交通事業者							交通事業者、各関係機関と協議の上、実施可能な施策より順次実施していく。
	公共交通非利用者への配慮	別所線沿線で大学、研究機関が集積する塩田地区	■モビリティマネジメント	上田市 交通事業者							施策導入の準備、各関係機関との協議の上、実施可能時期となり次第実施する。
		中心市街地に立地する事業所等	■ノーマイカーデー	上田市 各事業所							交通事業者、各関係機関、企業等と協議の上、実施可能な施策より順次実施していく。
		中心市街地に立地する事業所等	■公共交通利用者優遇制度	上田市 各事業所							
		中心市街地	■パークプライシング	上田市 各事業所							
	観光客への配慮	上田駅と周辺観光地	■上田駅から菅平高原、湯の丸高原、美ヶ原高原、白樺高原へのサービス拡大の検討	上田市 交通事業者							
需要偏計値と市補助金額合計					961,103	989,025	27,922	110,218	141,073	30,855	

*1：利用状況を検証し、今後の方向性を検討していく。
*2：実証運行の結果により今後の方向性を検討する。

「乗って残そう！」我が地域の公共交通　乗らなくちゃなくなっちゃうよ！！

【需要推計の条件】
- ○ 年○回利用の推計値は地域の 15 歳から 64 歳までの通勤通学者数で計算。
- ○ 「地域の人がその路線に年間何往復乗ったら、これだけ需要が増える！！」との算出をした。
- ○ ただし、バス路線は他地域に跨るため、地域ごとに需要を算出した。下記に示す需要は路線としての各地域合計需要である。
- ○ 利用回数は「行き帰りの 1 往復」を基本として計算した。

≪丸子地域循環バス≫

- ○ 沿線地域人口：約 7,000 人（丸子地域）
- ○ Ｈ18 年度市補助額は約 800 万円であり、丸子地域循環バスは年間 800 万円の赤字運行である。
- ○ 再編案実行後の赤字額は年間約 1,110 万円と予測される。
- ○ 1,110 万円の運行経費を運行収入で賄うためにはあと年間 6 往復の利用が必要である。

需要・運賃収入				再編案運行経費（千円）	運行経費を運賃収入でまかなうためには		沿線の65歳以上の人が年に1往復利用したら		沿線の65歳以上の人が年に6往復利用したら	
平成18年度実績		再編案実行後			必要年間需要（千人）	不足需要(千人) H18-必要需要	需要（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）
利用者数（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）							
9	**1,400**	13	**2,500**	**13,600**	83	74	22	**4,000**	88	**14,000**
約800万円の赤字		約1,110万円の赤字			年間6往復の利用が必要		約960万円の赤字			

≪武石線≫

- ○ 沿線地域人口：約 9,000 人（内武石地域：2,000 人　丸子地域：7,000 人）
- ○ Ｈ18 年度市補助額は約 550 万円であり、武石線は年間 550 万円の赤字運行である。
- ○ 再編案実行後の赤字額は年間約 420 万円と予測される。
- ○ 420 万円の赤字額を運行収入で賄うためにはあと年間片道 1 乗車～1 往復の利用が必要である。

需要・運賃収入				再編案運行経費（千円）	運行経費を運賃収入でまかなうためには		沿線の15歳～64歳の人が年に1往復利用したら		沿線の15歳～64歳の人が年に片道1乗車利用したら	
平成18年度実績		再編案実行後			必要年間需要（千人）	不足需要(千人) H18-必要需要	需要（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）
利用者数（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）							
26	**8,000**	24	**7,400**	**11,600**	37	11	42	**13,000**	34	**11,000**
約550万円の赤字		約420万円の赤字			年間片道1乗車～1往復の利用が必要		約140万円の黒字		約60万円の赤字	

「乗って残そう！」我が地域の公共交通　乗らなくちゃなくなっちゃうよ！！

≪武石デマンド≫

- ○ 沿線地域人口：約 1,000 人（武石地域）
- ○ H18 年度市補助額は約 960 万円であり、武石デマンドは年間 960 万円の赤字運行である。
- ○ 再編案実行後の赤字額は年間約 1,200 万円と予測される。
- ○ 1,200 万円の運行経費を運行収入で賄うためには年間月 2 往復ずつの利用が必要である。

需要・運賃収入				再編案運行経費（千円）	運行経費を運賃収入でまかなうためには		沿線の65歳以上の人が年に1往復利用したら		沿線の65歳以上の人が年に25往復利用したら	
平成18年度実績		再編案実行後								
利用者数（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）		必要年間需要（千人）	不足需要(千人) H18-必要需要	需要（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）
10	**2,100**	12	**2,600**	**14,600**	70	60	13	**3,000**	68	**14,000**
約960万円の赤字		約1,200万円の赤字			年間25往復（月2往復）の利用が必要		約1,160万円の赤字			

≪西丸子線≫

- ○ 沿線地域人口：約 15,000 人（内塩田地域：13,000 人　丸子地域：2,000 人）
- ○ H18 年度市補助額は約 580 万円であり、西丸子線は年間 580 万円の赤字運行である。
- ○ 580 万円の赤字額を運行収入で賄うためにはあと年間 2～3 往復の利用が必要である。

需要・運賃収入				再編案運行経費（千円）	運行経費を運賃収入でまかなうためには		沿線の15歳～64歳の人が年に1往復利用したら		沿線の15歳～64歳の人が年に2往復利用したら	
平成18年度実績		再編案実行後								
利用者数（人）	運賃収入（千円）	需要（人）	運賃収入（千円）		必要年間需要（人）	不足需要(千人) H18-必要需要	需要（人）	運賃収入（千円）	需要（人）	運賃収入（千円）
24	**5,400**	26	**5,700**	**20,000**	89	65	55	**12,300**	86	**19,100**
約580万円の赤字		約1,400万円の赤字			年間2～3往復の利用が必要		約1,100万円の赤字		約85万円の赤字	

「乗って残そう！」我が地域の公共交通　乗らなくちゃなくなっちゃうよ！！

≪中仙道線≫

- ○ 沿線地域人口：約 14,000 人（丸子地域）
- ○ Ｈ18 年度市補助額は約 700 万円であり、中仙道線は年間 700 万円の赤字運行である。
- ○ 再編案実行後の赤字額は年間約 660 万円と予測される。
- ○ 660 万円の赤字額を運行収入で賄うためにはあと年間 1 往復の利用が必要である。

需要・運賃収入				再編案運行経費（千円）	運行経費を運賃収入でまかなうためには		沿線の15歳～64歳の人が年に1往復利用したら	
平成18年度実績		再編案実行後			必要年間需要（千人）	不足需要(千人) H18-必要需要	需要（千人）	運賃収入（千円）
利用者数（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）					
16	**3,200**	16	**3,100**	**9,700**	50	33	45	**9,000**
約700万円の赤字		約660万円の赤字			年間1往復の利用が必要		約70万円の赤字	

≪丸子線≫

- ○ 沿線地域人口：約 14,000 人（丸子地域）
- ○ Ｈ18 年度市補助額は約 200 万円であり、丸子線は年間 200 万円の赤字運行である。
- ○ 再編案実行後の赤字額は年間約 200 万円と予測される。
- ○ 200 万円の赤字額を運行収入で賄うためにはあと年間片道 1 乗車の利用が必要である。

需要・運賃収入				再編案運行経費（千円）	運行経費を運賃収入でまかなうためには		沿線の15歳～64歳の人が年に1往復利用したら		沿線の15歳～64歳の人が年に片道1乗車利用したら	
平成18年度実績		再編案実行後			必要年間需要（千人）	不足需要(千人) H18-必要需要	需要（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）
利用者数（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）							
5	**900**	5	**900**	**3,100**	17	12	33	**6,000**	19	**3,000**
約200万円の赤字		約200万円の赤字			年間片道1乗車の利用が必要		約290万円の黒字		約10万円の赤字	

≪鹿教湯線≫

○ 沿線地域人口：約 24,000 人（内中央地域：10,000 人、丸子地域：14,000 人）
○ 年 1 往復利用すると約 50,000 人増加する。

需要・運賃収入				再編案運行経費（千円）	運行経費を運賃収入でまかなうためには		沿線の15歳～64歳の人が年に1往復利用したら		沿線の15歳～64歳の人が年に2往復利用したら	
平成18年度実績		再編案実行後								
利用者数（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）		必要年間需要（千人）	不足需要(千人) H18-必要需要	需要（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）
192	－	194	－	－	－	－	240	－	288	－

≪平井寺経由鹿教湯線≫

○ 沿線地域人口：約 9,000 人（内丸子地域約 1,500 人、塩田地域 4,500 人、城南地域 3,000 人）
○ 年 1 往復利用すると約 18,000 人増加する。

需要・運賃収入				再編案運行経費（千円）	運行経費を運賃収入でまかなうためには		沿線の65歳以上の人が年に1往復利用したら		沿線の65歳以上の人が年に2往復利用したら	
平成18年度実績		再編案実行後								
利用者数（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）		必要年間需要（千人）	不足需要(千人) H18-必要需要	需要（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）
25	－	24	－	－	－	－	43	－	60	－

≪長久保線≫

○ 沿線地域人口：約 24,000 人（内中央地域：10,000 人、丸子地域：14,000 人）
○ 年 1 往復利用すると約 50,000 人増加する。

需要・運賃収入				再編案運行経費（千円）	運行経費を運賃収入でまかなうためには		沿線の15歳～64歳の人が年に1往復利用したら		沿線の15歳～64歳の人が年に2往復利用したら	
平成18年度実績		再編案実行後								
利用者数（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）		必要年間需要（千人）	不足需要(千人) H18-必要需要	需要（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）
66	－	69	－	－	－	－	114	－	162	－

「乗って残そう！」我が地域の公共交通　乗らなくちゃなくなっちゃうよ！！

組織として取り組むノーマイカーデーへの協力

≪通常は自動車で≫　　≪会社として「ノーマイカーデー」を実施≫

自らの意思で「たまには環境にやさしい公共交通で」

≪通常は自動車で≫　　≪健康のため、環境のため、たまには公共交通で≫

「家族での買物・行楽も、たまには公共交通で」

≪通常は自動車で≫　　≪たまには公共交通で買物、行楽に≫